

国内感染症報告の状況

(平成23年4月1日から平成23年7月31日までの報告受付分)

感染症報告についての注意事項

- 1) 感染症報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め製造販売業者等から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。
- 2) 感染症報告については、平成23年4月1日から平成23年7月31日に報告されたものである。
- 3) 感染症名は、用語の統一のため、ICH国際医薬用語集日本語版(MedDRA/J)に記載されている用語(Preferred Term:基本語)で表示している。
- 4) 報告症例ごとに、被疑薬及び感染症名を記載している。

※販売名(一般名)の記載について

・「販売名」は原則として、輸血用血液製剤については、「医薬品データファイル(コード表)」の基本薬剤名により記載し、その他の製剤については、報告対象となった製剤の承認販売名を記載している。また、含量毎に異なる販売名とされる一連の製品で、含量が特定できない場合等には、販売名における含量記載等を省略する場合がある。

なお、過去における成分同一性を有する異なる承認製品の事案である場合等には、備考欄にその旨を記載している。

・「一般名」については、「医薬品データファイル(コード表)」の一般的名称とされる7桁コードの名称を使用している。

国内感染症報告の状況(平成23年4月1日～平成23年7月31日)

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者 性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
1	2011/4/15	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	男	～10	先天性疾患	C型肝炎	11/01-02	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) (11/01)	HCV-Ab(+) (11/03) HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) HCV-Ab(+) (11/03)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (10/9)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/3)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本(全部)についてHCV-RNA(-)	医療機関報告i11100154
2	2011/4/15	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	10/10-11/1	-	HBsAg(-) (10/11) HBsAg(-) (10/12) HBsAg(-) (10/12) HBsAg(-) (11/01) HBsAg(+) (11/02) HBsAg(+) (11/3) HBV-DNA(+) HBcAb(-) (11/3)	HBV-DNA(-) (10/10)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/03)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体4本全部についてHBV-DNA(-)	
3	2011/4/21	濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液)	女	70	血液疾患	細菌感染	11/4	-	輸血開始 BT36.5℃ BP120/61 1時間10分後 シバリング出現。輸血中止 BT37.7℃ BP79/68 2時間40分後 BT38.4℃ 3時間40分後 BT38.3℃ 院内にて患者血液培養実施、陰性	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし				担当医より「細菌感染と輸血血液の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
4	2011/4/21	新鮮凍結血漿-LR成分採血(新鮮凍結人血漿)照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	免疫系疾患	B型肝炎	10/12-11/02	HBsAg(-) (10/11)	HBV-DNA(+) (11/03)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (11/4)	陽性(輸血後)	保管検体34本(全部)についてHBV-DNA(-) 【献血者陽転情報】 当該 10年4月17日HBV関連検査適合(遡及調査) 個別HBV-NAT陰性 14回後 10年12月25日 スクリーニングNAT陽性(陽転献血)	献血者検体(陽転献血時:HBV-DNA陽性)と患者検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpを比較したところ、Genotypeの違いがあった。献血者のHBウイルスはGenotype Cで塩基配列からSubtypeはadrと推定した。患者のHBウイルスはGenotype Bで塩基配列からSubtypeはadwと推定した。 担当医より「ウイルスの塩基配列に違いがあるため、因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。
5	2011/4/21	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	男	50	腎・泌尿器系疾患	B型肝炎	10/01 10/03	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (10/01)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/05) HBV-DNA(+) HBsAg(+) (11/04)	-	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/06) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/12) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/04)	陽性(輸血後)	保管検体2本(全部)についてHBV-DNA(-) 【献血者陽転情報】 当該 09年12月25日 HBV関連検査陰性(遡及調査) 個別NAT HBV-DNA陽性 次回 10年4月28日 スクリーニングNAT(HBV)陽性(陽転献血)	当該献血者検体(HBV陽性保管検体)と患者検体とのウイルスの塩基配列を検査したところ、当該保管検体は検体量不足のため、塩基配列を決定することができなかった。そのため、当該献血者の次回献血時検体(2010年4月28日採血、スクリーニングNAT(HBV)陽性検体)と患者検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、1箇所相違があり、献血者検体の1箇所塩基配列の混在が見られた。混在箇所の塩基の片側は患者検体の塩基と一致していた。その他の箇所は全て一致した。献血者と患者のHBウイルスはGenotype Cで塩基配列からSubtypeはadwと推定した。 担当医より「輸血と感染の因果関係があると考える」とのコメントが得られた。

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
6	2011/4/26	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	30	消化器疾患	C型肝炎	08/08	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) (08/08)	HCV-RNA(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (08/08)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/4)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本全部について HCV-RNA(-)	
7	2011/4/26	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	40	血液腫瘍	B型肝炎	11/02-03	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/10) HBsAg(-) (11/01) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/02)	HBsAb(+) HBcAb(-) HBeAb(-) (11/03) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBeAg(-) (11/03)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/02)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (11/03)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体3本全部について HBV-DNA(-)	
8	2011/4/27	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	男	80	腎・泌尿器系疾患 血液疾患	C型肝炎	10/05-06	HCV-RNA(-) (10/05)	HCV-Ab(-) (10/06) HCV-RNA(+) (10/06) HCV-RNA(+) (11/03) HCV-RNA(+) (11/03) HCV-Ab(+) (11/03)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/03)	陽性(輸血後)	保管検体6本についてHCV-RNA(-)	
9	2011/4/27	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	40	血液腫瘍	B型肝炎	10/11	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/10) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/11)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/12) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/4)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/10)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/04) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本についてHBV-DNA(+) 【献血者陽転情報】 当該10年11月1日 HBV関連検査陰性(遡及調査) 個別HBV-DNA(+) 次回 11年3月17日スクリーニングNAT(HBV)陽性(陽転献血)	献血者(HBV陽性保管検体)と患者検体とでS領域193bpの塩基配列を比較したところ、3箇所相違が認められた。その他は全て一致した。献血者と患者のHBウイルスはGenotype Bで、塩基配列からSubtypeはadwと推定した。 注)患者検体の、PreS/S領域を含むP領域前半部の1550bpの塩基配列はウイルス量が少なくPCRで増幅できなかった。

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
10	2011/5/2	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	女	50	その他の腫瘍 脳疾患	B型肝炎	10/09	HBsAg(-) (10/06) HBsAg(-) (10/09)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) (11/01) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBeAg(+) HBeAb(-) (11/04)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (11/04)	陽性(輸血後)	保管検体3本全部について HBV-DNA(-)	
11	2011/5/2	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	血液疾患 循環器疾患	C型肝炎	09/12- 10/01	HCV-Ab(-) (09/12)	HCV-Ab(+) (11/02) HCV-RNA(+) (11/04)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/12)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/04)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体6本全部について HCV-RNA(-)	
12	2011/6/3	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	脳疾患 免疫系疾患 循環器疾患	B型肝炎	10/12	HBsAg(-) (10/08)	HBsAg(+) (11/04) HBV-DNA(+) (11/05)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (11/05)	陽性(輸血後)	保管検体2本全部について HBV-DNA(-)	
13	2011/6/3	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	50	生殖器腫瘍	C型肝炎	11/3-4	HCV-Ab(-) (11/03)	HCV-Ab(+) (11/05)	-	HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) (11/05)	陰性(輸血後)	保管検体7本全部について HCV-RNA(-)	

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
14	2011/6/3	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	血液腫瘍	C型肝炎	11/3-4	HCV-RNA (-) HCV-Ab(-) (11/3)	HCV-Ab(-) (11/04) HCV-RNA(+) (11/04) HCV-Ab(-) (11/05) HCV-RNA(+) (11/05)	-	HCV-RNA (-) HCV-Ab(-) HCV-RNA(-) (11/05)	陰性(輸血後)	保管検体2本全部について HCV-RNA(-)	
15	2011/6/7	濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	女	40	血液腫瘍	C型肝炎	11/2	HCV-Ab(-) (10/08)	HCV-Ab(-) (11/04) HCV-Ab(+) (11/05) HCV-RNA(+) (11/05)	HCV-RNA (-) HCV-Ab (-) (10/08) HCV-RNA (-) HCV-Ab (-) (11/02)	HCV-RNA (+) HCV-Ab(+) (11/05)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本全部について HCV-RNA(-)	
16	2011/6/7	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	80	外傷・整形外科的疾患	細菌感染	11/5	前日まで発熱あり(体温 37°C前後) 当日 BT 37.3°C、 BP 134/85	輸血2時間40分後 BT 38.9°C、BP 151/98 院内にて実施の患者血液培養より MRSAを同定した。 輸血翌日 BT 37°C前後の発熱	投与中止の当該製剤(1本) で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査 実施 非溶血性副作用関連検査 実施。 抗血漿タンパク質抗体検査: 陰性 血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし	-	-	担当医より「細菌感染と輸血血液の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	
17	2011/6/7	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	消化器腫瘍	細菌感染	11/5	-	輸血開始後BT 36°C台 輸血終了後BT 37.9°C 輸血開始2時間40分後BT 38.7°C 輸血翌日から3日間 BT 38°C以上 院内にて実施の患者血液培養は陰性。	使用済みバッグ(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査 実施。 抗血漿タンパク質抗体検査: 陰性	-	-	担当医より「細菌感染と輸血血液の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
18	2011/6/10	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	循環器疾患	細菌感染	11/5	BT 36.8°C	<p>輸血開始から1時間10分後 BT 39.9°C、輸血中止。 採血し、血液培養実施(陽性) 輸血中止から50分後 BT 40°C。</p> <p>翌日 BT 37.8°C 1時間後BT 40°Cに上昇 血液培養実施(陽性)</p> <p>2日後 血液培養実施(陰性)</p> <p>3日後 BT 37°C台で推移。(37.7°Cが最高) 夕方 BT 36.7°C</p> <p>院内にて実施の患者血液培養より肺炎球菌を同定した。</p>		<p>投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし</p>	-	-	担当医より「細菌感染と輸血血液の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。
19	2011/6/22	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	頭頸部腫瘍 消化器疾患 糖尿病	C型肝炎	11/02	<p>HCV-Ab(-) (11/01) HCV-RNA (-) HCVコア抗原 (-) (11/02)</p>	<p>HCV-Ab(+) (11/05) HCV-RNA(+) HCVコア抗原(+) (11/05)</p>	<p>HCV-RNA(-) (11/2) HCV-Ab(-)</p>	<p>HCV-RNA(+) HCV-Ab(+)</p>	<p>陰性(輸血前) 陽性(輸血後)</p>	保管検体6本全部HCV-RNA(-)	
20	2011/6/29	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	60	血液疾患	細菌感染	11/06	-	<p>輸血開始3~4時間後、BT 38.5°C</p> <p>院内にて実施の患者血液培養よりBacillus sp.を同定。</p>		<p>当該製剤のセグメントチューブで細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし HLA Class1抗体陽性</p>	-	-	担当医より「輸血と感染の因果関係はないと考える」というコメントが得られた。

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者 性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
21	2011/7/8	照射濃厚血 小板-LR(人 血小板濃厚 液(放射線照 射))	女	70	血液疾患	細菌感染	11/06	BT 36.2°C、 BP 116/72	<p>輸血後3時間半 BT 37.4°Cの発熱 輸血後4時間20分 悪寒出現。 輸血後5時間40分 悪寒消失。BT 39.0°C、SpO2 96% 輸血後6時間20分 血液培養採取。 抗菌薬投与。 輸血後6時間45分 BT 39.6°C、BP 130/68、解熱剤内服。</p> <p>輸血翌日 朝 BT 36.8°C、CRP 6.29mg/dLと上 昇あり。</p> <p>午後 BT 36.7°C、BP 126/56、SpO2 97%</p> <p>院内にて実施の患者血液培養より Escherichia coliと同定された。</p>	使用済みバッグで細菌培養 試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査 実施、 抗血漿タンパク質抗体検 査:陰性 血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし	—	—	担当医より「細菌感染と輸血血 液の因果関係はないと考える」 とのコメントが得られた。	
22	2011/7/8	照射赤血球 濃厚液-LR (人赤血球濃 厚液(放射線 照射))	男	70	消化器腫瘍	C型肝炎	10/5-6	HCV-Ab(-) (10/5)	HCV-Ab(+) (11/06) HCV-RNA(+) (11/06)	HCV-RNA (-) HCV-Ab (-) (10/05)	HCV-RNA (+) HCV-Ab(+) (11/06)	陰性(輸血 前) 陽性(輸血 後)	保管検体3本(全 部)HCV-RNA(-)	

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
23	2011/7/15	照射濃厚血 小板-LR (人血小板濃 厚液(放射線 照射))	男	60	血液腫瘍	細菌感染	11/06	<p>輸血実施日 朝 BT 37.9°C、BP 96/50、PR 78/min</p> <p>昼BT 37.6°C、BP 108/60、PR 64/min、 SpO2 99%</p>	<p>輸血開始45分後 BT 39°C、BP 168/66、PR 130/min</p> <p>悪寒、戦慄、呼吸苦(SpO2低下)、一 過性にBP 168に上昇(その後BP 80 台)。投与中断。 1時間25分後 BT 39°C、BP 124/74、 PR 130/min、SpO2 74%、O2 マスク 10L/min FiO2 50%</p> <p>1時間45分後 胸部聴診にて湿性ラ 音あり。胸部X線検査にてCTR 48.31%→51.46%、両側浸潤影あり。 レントゲン写真上やや心陰影の拡大 と肺うっ血像認めた。LVEF 20%前後 もあり、利尿薬、赤血球製剤投与し た。 2時間35分後 SpO2 99%、O2 マスク 10L/min FiO2 50%</p> <p>5時間15分後 BT 37.8、BP 82/46、 PR 110/min、SpO2 99%、O2 カヌラ 2L/min</p> <p>7時間15分後 残りの血小板製剤投与 開始。 7時間40分後 悪寒、戦慄とともに、 この時点でO2 nasal 2L、SpO2 93%に なっていたが徐々に低下。 7時間45分後 SpO2 80%、O2 マスク 10L/min FiO2 50%</p> <p>BT 39.2°C、BP 119/78に一過性に上 昇し、BP 82/48に低下。解熱鎮痛薬 投与にて解熱。</p> <p>輸血翌日 朝 CRP 10.9mg/dL SpO2 94%、O2 10L/min FiO2 50%、そ の後徐々に改善。 昼 SpO2 98-99%、O2 nasal 5L/min エンドトキシン検査は基準値内。</p> <p>院内にて実施の患者血液培養陰性、 当該製剤の血液培養陰性。</p>	<p>当該製剤のセグメントチュー ブ(1本)で細菌培養試験を 実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査 実施、 抗血漿タンパク質抗体検 査:陰性 血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし</p>	-	-	担当医より、「細菌感染と輸血 血液との因果関係はない」との コメントが得られた。	

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
24	2011/7/27	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	肝・胆・膵腫瘍 消化器腫瘍	細菌感染	11/06	-	輸血開始1時間後 悪寒出現。顔色不良。 1時間20分後 輸血中止。 1時間35分後 BT 39.1°C、BP 186/82、SpO2 88-96%(変動あり) 2時間後 悪寒消失。 2時間40分後 BT 39.5°C、BP 140/62、SpO2 96-97% 翌日 輸血施行。 院内にて実施の当該製剤(2本)の血液培養よりAcinetobacter baumanniiを同定した。 患者血液培養は未実施。	当該製剤のセグメントチューブ(2本)で細菌培養試験を実施。 非溶血性副作用関連検査実施、陰性。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-		
25	2011/7/27	照射赤血球濃厚液-LR (人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	生殖器腫瘍 腎・泌尿器系疾患	C型肝炎	10/08	HCV-Ab(-) (10/07) HCVコア抗原(-) (10/08)	HCV-Ab(-) (10/09) 10/10/05 HCV-Ab(+) (11/07)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (10/08)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本 HCV-RNA(-)	
26	2011/7/28	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	男	60	頭頸部腫瘍	B型肝炎	11/04	HBsAg(-) (11/03) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/03)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/07)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/03)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本についてHBV-DNA(+)	献血後にB型肝炎を発症したとする献血者等からの献血後情報(献血者健康情報)に基づく調査において判明した症例。患者検体と献血者検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部分の1550bpの塩基配列を比較したところ全て一致した。両検体のHBV-DNAはGenotypeCで塩基配列からSubtypeはadrと推定された。

No.	報告受領日	販売名 (一般名)	患者 性別	年代	原疾患 (簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
27	2011/7/28	照射赤血球 濃厚液-LR (人赤血球濃 厚液(放射線 照射))	女	30	産科(出血)	ヒトパルボ ウイルス B19	11/06	IgM-B19- Ab(-) IgG-B19- Ab(-) (11/06)	IgM-B19-Ab(+) IgG-B19-Ab(+) (11/06)	B19-DNA (-) IgM-B19-Ab (-) IgG-B19-Ab (-) (11/06)	B19-DNA(+) IgM-B19-Ab (+) IgG-B19-Ab (+) (11/07)	陰性(輸血 前) 陽性(輸血 後)	1本がB19-DNA (-) IgM-B19-Ab (-) IgG-B19-Ab (-) 1本がB19-DNA (+) IgM-B19-Ab (+) IgG-B19-Ab (+)	患者検体と献血者検体の B19DNA塩基配列(NS1/VP1領 域1069bp)を比較したところ、全 てが一致した。両者の Genotypeは1型であった。